

竹川、浅川、内田先生へのコメント

イアン・リーダー

ありがとうございます。いろいろとコメントありがとうございます。

今日は昼の食事を食べてから、私は吉田先生から傘を借りて少し散歩に行き、護国神社まで行きました。ここで自転車に乗っているお遍路さんに会って2、3分ぐらい話しました。ご承知と思いますが、私たちは、ここで学問的に遍路のこと、遍路の歴史とかを話しています。[しかし]外に出たら、生きている遍路さんに会った。私の考えは、遍路さんとは、もちろん学問的にも研究しますが、それはいつも「生きている」、「生きている」現象です。「生きている」というのは、いつも変遷があるということです。

内田先生のお話は、「作法」についての変遷[のお話]は、多分、巡礼と遍路についてのモデルじゃないかだと思います。というのは、私は、昨日の講演では交通の変わり[変化]で、遍路とか巡礼が変わるということ[話しました]。そして、遍路とか巡礼が、非常に大切な研究テーマにしていることは、特に変化つまり変遷だと思います。それはいつもそういうことがあって、[研究する場合には]歴史的な面も現代的な面も、そして例えば人類学的な面の両方ともが必要だと思います。それが1つのポイントです。

そしてまた、その自転車に乗っている人が札所をまわって、札所を打っていますが、途中でいろいろ見物して、いろんな古墳とかいろんな歴史的な所に行っています。自転車に乗っても、彼は、「90日か3ヶ月くらいかかる」と言いまして、途中でいろんな四国に住んでいる友達を訪ねて行っています。おもしろいのは、遍路と観光と見物と同時に行っていることで、それがまた巡礼の特殊性だと思います。

さて、竹川先生それから浅川先生についても、いろいろコメントします。竹川先生の教示によりますと、いろいろおもしろいポイントが出ていました。1つ目は、遍路で一番多いというのは[愛媛ですが]、三番目に多いのは愛知県でした。私はどこでも巡礼の勉強をするとき、いつもどちらの地方からが多いかと聞きます。そうすると、いつも愛知県の方が熱心で、愛知県の方からのお遍路さんが多いんですね。四国以外の地方霊場では小豆島とかが一番なんですが、[地方霊場で]盛んになっているのは、今でも[全体としてみれば]遍路さんの数が減っているんですが、一番盛んになっているのが知多半島です。なぜかと聞きましたら、「愛知県ですから」と[いう答えです]。

そして、おもしろいと思うのは、なぜある地方に巡礼者が多いのかということです。後で私も聞きたいんですけど、それはまた研究のテーマになる可能性もあります。なぜある所から、ある地方からの巡礼者が多いのかということは、今までの巡礼研究の世界では、そういう調査はほとんどないでしょう。あまりないんじゃないかと思います。そして、それはまた将来の研究テーマになる可能性があるかもしれないですね。

またもう1つは、自家用車が一番多いという、今50%くらい自家用車に乗っているということは、また遍路の変化の1つの例でしょうか。10年前と15年前にその調査をしたら、多分バスが一番多かったでしょう。それもまた現代化の影響じゃないかと思います。現代化と社会の個人化の影響だと思います。また、もう1つは、そのアンケートの中で、年代によって考え方や目的とかはちょっと違うという。ものすごくおもしろいと思います。私たちもよく遍路さん・巡礼者を1つ組[1グループ]だとして考えるでしょう。ですが、その中に年代によっていろいろの意見、別々の目的があって、そして、もちろん個人的な目的がありますが、そのアンケートによりますと、年代によって目的が違うんですね。それがまた将来の研究テーマになった方がいいんじゃないかと思います。

そして、また同じアンケートで、もう1つのコメントですが、アンケートする時は、いろんな質問に[その場で]すぐに遍路さんが返事するでしょう。私も何回もアンケートをしましたが、アンケートはあまり、私の方はあまり[成果が]出なかった。ほとんどのアンケートは後で面接しました。面接とアンケート[の質問]は似ていましたが、私は時々、遍路中の遍路さんに面接して、その後、またもう一度面接しました。終わってから、その遍路さんの住所をもらって家に行って、また面接して、そうすると途中の意見や途中の目的と、そして終わった時の意見と目的は時々変わるんですね。途中の遍路と終わった遍路の意見はしばしば違うと思います。それはまた遍路の変化ですね。遍路の意見の変化がまた研究テーマになるというのは、出る前の意見と途中の意見と[遍路]後の意見についてでしょう。またそれは大きいプロジェクトになるのですが、もしできれば、[愛媛大学「四国遍路と世界の巡礼」研究会で]よろしく願いいたします。(笑)

浅川先生は、いろいろおもしろいことを言いました。特に、プレスター・ジョンの伝説で歴史が成り立ったことはものすごくおもしろいことだと思います。その「オーセンシティのポリティクス」は、「オーセンシティ」という言葉もよく特に人類学で、その考えが特に最近よく話に出ます。ですが、私が昨日説明し

ようとしたのは、学問的な概念から言ったら、そのオーセンティシティという考えは、ちょっと問題、いろいろ問題があると思います。私はオーセンティシティの話は、あまり役に立たないと思います。

それで、鉄道と聖地ということについては、その[パワーポイントで示された]地図はものすごくおもしろくて、後でそれを見ても[おもしろい]。私もいろんな別の鉄道、特に私鉄と地方の巡礼について、例えば島根県の、市場と役所の近くの私鉄は自分の七福神巡りを作りました。また阪急線が自分の七福神巡りを作りました。実は私は1回、数年前に「鉄道と宗教」、「レイルロード・アンド・レリジョン」というプロジェクトをしようと思いましたが、時間的にはできなかったのです。たぶんそれは将来のプロジェクトになるという可能性があります。日本では私鉄だけでなくJR[もやっています]。今でもJRは西国巡礼、霊場会といろいろ協力して、最近では「西国33ヶ所お出かけ切符」もJRは去年の3月まで売っていました。

そして、もう1つだけコメントを。その日常世界と非日常世界についてのコメントです。私も[ヴィクター・]ターナーとか星野[英紀]先生のことを読んで、これに賛成するんです。非日常と日常という枠組みがどこでも巡礼にあると思います。ある人にとって、[巡礼とは]家を出て非日常世界に入ることなんですね。でも私のポイントは、実は、もし何度も遍路をする、何度も巡礼をする、いつも巡礼をして巡礼をしない時に次の巡礼のいろいろ準備をすると、非日常性、非日常世界と日常世界の、何ですか、境はだんだん弱くなって、どちらが実の非日常、どちらが本当の日常世界であるのかは、それが質問になりますね。そして、最近「お四国」というイメージのことを言っていますが、それはものすごくイマジネーションとエモーショナル・ランドスケープ[のこと]と言えるのじゃないかと思います。というのは、自分の「地理的の四国」を回っても「お四国」というイメージがあって、それは同時に、地理的「本当の四国」と「イマジネーションの四国」で、両方ともです。2つのスフィア[sphere]になっていますね。それから、日常と非日常が一緒になる可能性もあるんですね。そのことはまた後でいろいろとコメントのある可能性もありますが。

そして最後に、それを1つにまとめて、最後のディスカッションになることですが、1つは、浅川先生が「私は宗教学者だ」と言ったのですが、私は、いつも宗教学者と一緒にいる時は「私は宗教学者じゃない」と言って人類学者ですが、人類学者と一緒にいると社会学者と言います。ということで、社会学の学会に行くと「人類学者、宗教学者です」と。いつも変わっています(笑)。私はちょっと学問の世界の巡礼者だと思いますが、本当には私は歴史学者です。大学で勉強した歴史学者です。そして歴史学が必要です。人類学者と話すと、人類学者にはいつも、たとえ現代の巡礼を勉強しても、例えば、お寺に行って遍路さんを見ると、相変わらず昔からこういう形があるということがわかります。私は人類学者と話すといつも「歴史の勉強をしなければならぬ」と思います。

内田先生のお話では、遍路には変遷が、時代がありまして、時代によって遍路や巡礼、その現象も変わるんですね。いつも歴史的な立場が必要だと思いますが、歴史学者がテキストを勉強しても、そのテキストはもちろん人間が書いたものです。そのため、それはある面で人類学の面が必要です。それから歴史学には人類学とか社会学が非常に研究に役に立つと思います。巡礼の研究は多分たくさんの面から[取り組まなければならない]マルチディシプリンなことですね。そして、歴史学者も必要で、人類学者も必要で、宗教学者も必要で、社会学者も必要で、もし一緒に器用にできる人は、巡礼という曖昧なことをもっともっと分かるようになると思います。以上です。

イアンリーダー氏のコメントについては、校閲者により本質を損なわない範囲で[]により最小限の語句を補いました。